

地域密着型サービスの自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着した事業所独自の理念を作り取り組んでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼、終礼で理念を唱和して地域に開かれたサービスを提供できるように全職員で取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関入り口のカウンターに掲げ、御家族には家族会や行事に参加された時、地域の方には運営推進会議などで理解して頂くように取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	敷地内での散歩が主で近所の方と触れ合う機会が少ない。12月の餅つき後は隣近所におすそ分けをし、顔なじみとなれる様に挨拶回りを行っている。今年度は公民館に加入し、通信など定期的に回ってくるようになり立ち寄ってもらう機会が増えた。	○ 近隣の方から「散歩途中にでも立ち寄って下さい」などの声かけがあったりと、公民館加入により近隣の一員としての認識の高まりを感じている。利用者と一緒に敷地外に足を伸ばし、地域の顔として近隣の方と日常的に触れ合う機会を多くもっていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館加入により地域の一員としての活動参加の要請を受けるようになっていく。近隣、地域に在住する方々とより多く交流する機会を設けることが出来た。	○ 季節に応じた、地域の行事に、体調など心身状態に配慮しながら、職員と一緒に全利用者が参加できるように取り組み、利用者の方々が地域で暮らしていることを実感できるような支援をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	利用者の出来る力を伸ばし、日常の生きがいとし ながらも、取組んだものを地域の方に還元でき るような活動を行っている。昨年より雑巾作りを 行い、まとまった枚数を地域の保育所や小学校に 謹呈し喜んでいただいている。その他にも裁縫の 技術を生かし、手作りのバックや袋物などの作成 に取り組んでいる。	○	昨年からの裁縫活動を継続し、利用者の方々の力 を更に地域に貢献、周知できる取り組みをしてい きたい。公民館長や民生員の方と地域の状況につ いての情報等交換しながら、地域に暮らしている 方に寄り添った手作り品の謹呈や交流を検討中 である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を実施する意義について理解し改善すべ き評価内容について職員と話し合い取り組んでい る。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	運営推進会議で利用者の状況や個別ケアなどにつ いての報告を行い、委員の方の意見を聞き会議記 録を作成して職員と話し合い活用している		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	介護相談員に月2回訪問して頂き利用者へ声を聞 いて頂いて、後日事業所に活動連絡表が送付して くる。職員に回覧してサービスの向上に反映する ように話し合っている。	○	機会があればご家族が参加される行事にも顔を出 していただき、ご家族の声にも触れて頂きたいと 考えている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る	制度として存在している事は周知しているが、支 援の実例がなく、具体的な情報を得ていると言 い難く、必要性発生時に、きちんとした支援が出 来るか疑問である。管理者を始めとしてスタッフ 全員が制度に関心を持ちきちんと学び、いざとい う時に活用できるようにしていく必要性を感じて いる。	○	今後、社会福祉協議会の方や専門としている方の 支援を頂き、家族会行事を活用し説明の場を設け ていく予定である。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	虐待について研修で学んだことを職員に回覧し て、虐待の実態を知り職員で話し合い防止に努め ている。新聞記事などを活用して協議している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、利用契約書に基づき詳しく説明して利用者や御家族に十分に理解、納得して頂くように努めている。また、事業所、利用者の再確認の意味でも担当者会議の場を利用して、契約内容についての説明、同意を得るようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から不満、苦情の言いやすい雰囲気作りに努め職員と話しあう機会をつくっている。家族の面会時間取り取りをして面会カードに記入し職員で話し合い改善に取り組んでいる。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や行事に参加して頂いた時に報告するようにしている。健康状態の変化が発生した時は電話連を随時行っている。担当者会議を活用し、介護職員から直接日常の生活について話せる場も設けている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中で管理者が苦情窓口である旨及び行政機関の苦情受付窓口をお知らせしている。アンケート調査で意見を聞き運営に反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議で運営に関する事などを周知して、職員の意見などを聞く機会を設けている。事業所内で改善できる事から実施している。又、経営者と管理者は月次報告により協議する場をもうけている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者1名と常時3名の職員を確保して必要に応じて調整出来る様に努めている	

宮崎県都城市 グループホーム2ユニットしらゆり（しらゆり）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを防ぐことを優先している、異動や退職が発生し、やむを得ない場合もある。しかし引き継ぎ期間に利用者の状態をきちんと伝え、対応の変化で利用者が困惑しないように留意している。また家族にも早めに周知し不安が生じないように努めている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ひとり一人の目標管理をたて、それに基づいた研修年間計画を作成して全職員が外部研修に参加してスキルアップに努めるようにしている。グループ内の研修にも参加し研修内容について報告する場を設けることで全職員が内容について共有できるように努めている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年よりグルーム内のグループホーム3箇所を二ヶ月に1回相互訪問し管理者、職員の交流を深めている。	○	グループ以外の同業者との交流についての取り組みを検討していきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	グループ内では年間の計画に基づき実施して職員の交流の場を提供している。事業所内では休憩場所の確保や職員と利用者が楽しんで出来る個別ケアに取り組んでいる。	○	職員開催のお楽しみ会を計画していきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年3回職員と面談して進捗状況など話し合い、各個人の要望や困っていることなどを聞き取り、改善していくように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の面会時より相談し易い雰囲気作りに努め、訴えに傾聴し、困りごとや不安感を表出しやすいように接する事を心掛けている。また現状の心配事を受け止めることで本人との信頼関係を早期に築く事ができるように、初期は特に一对一の面談の機会を多くしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時は家族の訴えに傾聴し同意しながら、不安感や現在に至るまでの経緯を話していただいている。相手の信頼を十分に得られるまで話し合う機会を設け、利用への不安感を軽減できるように努め、もとめられている事と現状にギャップが生じないように努力している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が辿ってきた経緯や現状を傾聴し、意向を伺いながら心身状態など総合的な視点で何が必要なサービスか見極めるように努めている。また様々なサービスについても情報提供しながら、家族、本人、また事業所が納得のいく形でサービス利用に繋げる努力をしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族との面会を多くし、特に利用者にとっては馴染みの関係作りを心がけ、環境変化へのストレスを最小限に抑えられるように努めている。また可能な限り当GHへの訪問を多くして戴き、日常のGHの様子を実感していただくことで安心感を得られるように働きかけている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の出来る事、できない事、またしてみたい事を理解し様々な生活の場で立場を超えて生かしていけるように努めており、利用者も日常の役割としてそれぞれが無理なく取り組む事ができるように見守っている	

宮崎県都城市 グループホーム2ユニットしらゆり（しらゆり）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会を運営しており、年間行事への積極的な参加を得られている。また定期的な訪問も多く、普段の利用者の状態を理解していただく事で本人のケア法についてのアドバイスを頂いたり、職員と共に利用者を支える支援体制が確立している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族間との生活歴を理解し、それぞれの利用者との関係が良好に保てるように、面会への働きかけや行事への参加を依頼して楽しく活動出来るように取り組んでいる。また日々の利用者の様子や家族への思いなどを伝えるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴で長年親しんできた場への訪問を行事として組み込んだり、なじみの友人の訪問を受け入れたり、継続した関係作りの支援に取り組んでいる。またお出かけデイとして利用者の自宅へ出かけ近所の方と接する機会を作っている。入所する以前の自治会で馴染みのお店に出かけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれの利用者間の生活や職業歴などを把握し、共通点や話題作りを提供する事でコミュニケーションが図れるように支援している。また共同作業を通して、利用者間が励まし合える声掛けや見守りを行なっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用後の生活状況や心身状況についても、家族や関係者から情報を入手できるように努め、継続的なアドバイスや入所時の状態を提供する事でその後の生活が安定したものとなるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話の中で希望や意向を聞き、ご本人が何を望んでいるかを把握するように努めている。困難な場合は何気ない会話や表情の中から本人が満足しているかを職員が常と感じ取るように努めているが時として不穏を招いている時がある	○ 利用者によっては自身の思いや訴えをうまく表現できずに不穏な言動に繋がる場合が多々ある。職員が一人一人の日常のケアから本人の状態の変化に気付き感じ取れる感性を常に維持できるように、ケアに慣れが生じない取り組みを今後も継続したい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに於いて、利用者、家族、関係スタッフから出来る限りの情報を収集し、多角的な面で一人ひとりの経歴の把握ができるように努めている。また担当者会議にて職員全員が認識できるように努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、本人の心身状況を携わったスタッフがそれぞれ記録し、生活の様子を観察する事で一人ひとりの生活の流れを掴み、それを総合的に評価することで現状の把握ができるように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日のケアの中でスタッフが感じた事、気付いている事を話し合う場を定期的に設けて、介護計画に反映できるように取り組んでいるが限られた時間、スタッフ人員の中で、一人ひとりの思いに込め切れていない状況がある	○ 家族や地域の力も利用し、また専門分野の意見も積極的に組み入れながら、本人にとって最良のケアを提供できるように広い視野が反映される介護計画の作成に努めていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日ケアプランに沿った記録を、都度携わった職員が記録する事で現状プランとケア内容に落差がないか把握しながら、総合的な意見をまとめた上で見直しプランを作成している。その際、医師の意見や専門家の見解も反映できるように担当者会議への参加を促している。	○ それぞれの時間調整が困難で医師や栄養士など専門分野の担当者会議への参加が困難ではあるが事前に見解を伺い、担当者会議の場で職員への意見、アドバイスとして反映出来るように周知している。今後は出来る限り職員と共に専門職の方を囲んでの担当者会議を積極的に取り入れていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一定の入所者だけでなく、スタッフ全員がそれぞれの入所者について把握できるように、都度携わった入所者についての記録を日々記入している。そうする事で実践すべき事や情報の共有が出来、自分以外の職員の視点が刺激になり、実践に伴った介護計画に繋げる事が出来ている。	○	プランに即したケアは実践として記録に残す事が出来ているが、職員の気づきや感じた事の記入や記録が少ない。より良い介護計画にするためにも職員の思いが反映される記録の仕方を工夫していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	それぞれの入所者のニーズに目を向け出来る限り対応できるようにしているが、なじみの場所への外出など充分に応えられているとは言い難い状況である。医療面についてのケアはグループの連携により充実したケアの提供ができていると自負している	○	ご本人のそれぞれの要望に素早く対応できるように、家族にも意向を伝え、意見や協力を仰ぎながら、満足感を得られるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	音楽ボランティアを受け入れ演奏会を実施し、入所者との触れ合いの場として提供。また介護相談員の定期的な訪問により入所者と触れ合っていたが、都度の気づきやアドバイスにより支援に活用している。民生員との定期的な交流により地域との交流へのアドバイスも受けているが充分とは言い難い状況	○	視力障害、車椅子、徘徊など心身状況が多様である入所者のそれぞれのニーズに応じていくために地域資源との関わりを深め、協力を仰げるように働きかけていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族の意向を伺い、必要に応じてリハビリ受診にて機能維持のための支援をしている。その際、PT、OTによるアドバイスを伺いながら日常生活に活用し自立支援に繋がるように努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現入所者に於いては家族の支援が安定しており、現状では権利擁護利用の必要性は無いが、常に情報は入手しており、長期的なケアマネジメントについては必要に応じて地域包括支援センターと協働できるような支援体制が出来ている。		

宮崎県都城市 グループホーム2ユニットしらゆり（しらゆり）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	環境変化へのストレスを最小限に抑えられるように出来る限りの情報収集を行い、部屋割り、室内環境に留意し、本人が穏かな気持ちで過ごすように努めている。ケアについても事前に関係者より状況を伺い入所者の戸惑いを最小限に出来るように努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	個人の呼び名に留意し、尊重した声掛けを心掛けている。記録については、イニシャルにて表示しプライバシー保護に努めている。外部との連携必要時は個人情報の管理に努め、守秘義務について十分認識し情報交換を行っている。	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	各々の表現方法を理解し、傾聴姿勢にて本人の訴えを理解できるように努めている。意思表示の困難な入所者については、表情や精神状態から満足度を推し量りながらケア提供している。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	利用者の好まれることをいつでも支援できるように職員と話し合って準備している。(裁縫道具、キーボード、習字道具、色紙、のりなど)又、体調の変動にも留意し、心身の状態にあったレクレーションの提供を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	意思表示のはっきりしている利用者には尊重しアドバイスをしなが、そうでない利用者には一緒に寄り添い本人の意思確認をしながら身だしなみを整えるように支援している。理容については職員や家族がおこなっており楽しい雰囲気の中で散髪する事で満足を得られている。	

宮崎県都城市 グループホーム2ユニットしらゆり（しらゆり）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>本来ならば午前や午後、寝る前といった本人の希望に応じた入浴提供を理想とするものであるが、当入所者の特性において、効率性や安全性を考慮し現状の支援体制にとどまっている。利用者の入浴についての満足度について楽しい入浴という視点を重視し今後の課題としていきたいと考える。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

宮崎県都城市 グループホーム2ユニットしらゆり（しらゆり）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に利用者は金銭の所持は行なっていない。必要に応じて、それぞれの能力に合わせ、家族の承諾を得た上で、一定の金額を渡し、買い物時に使い方について見守り、支援の場を提供している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	基本的に毎日午前中の散歩を日課として生活に組み入れている。雨の日以外は外の空気に触れ、草花を鑑賞し季節も感じるようにしていただいている。また、利用者の希望が感じられた時には柔軟な姿勢で対応できるような支援体制を整えている。	○	ホームで日課となっている外出以外に一人ひとりの希望に沿った、外出も積極的に取り組んでいけるように計画している（買い物、地域の祭り）
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族会を運営し、年間行事として家族と共に、事業所全体で定期的に過ごせる時間を提供している。季節感のある行事を組み入れ、戸外に出かけ食事や催しを楽しむなど、年間を通じて楽しむ機会を作っており、家族の多数の参加を頂く事ができている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人との連絡として取り次いだり、家族間との手紙のやり取りを提供し、精神面のつながりが途絶える事の無いように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	開かれたサービス事業所として、いつでも訪問を気持ちよく受け入れることができるように全スタッフの意識の統一に努めている。定期的な家族の訪問、不意な来客にも気持ちよい接待でもてなせるようお茶菓子を常備し、両者に喜んでいただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止事項について全職員が意識を高め、理解できるように閲覧している。現在弄便行為や徘徊の強い利用者が入所中であるが、全職員、拘束しないという認識のもと本人の行動をむやみに制限する事無く、心身面に配慮した言動にて精神面の安定を図る事ができている。		

宮崎県都城市 グループホーム2ユニットしらゆり（しらゆり）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>徘徊という行動障害について、家族や地域の理解や協力を深めていく必要がある。鍵をかける事が当然とした意識が定着しないように、常に、鍵をかけないようにするにはどうするべきかという問題意識を常に持ちながら、全職員でケアに取り組んでいきたい。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>公民館加入により地域と日頃から協力体制等について話し合いの場を設けることが出来るようになった。災害に備えた地域での避難訓練などへの参加も積極的に行っていきたい。</p>


宮崎県都城市 グループホーム2ユニットしらゆり（しらゆり）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入所時、状態変化時、更新時は基本として、家族との面会時など日々の利用者の状態について報告し、家族にも現状を理解していただく事で相互納得の行く形でのケアに取り組めるように話し合いの場を出来る限り多く持てるように努めている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルを欠かさず行い、変化や異変がないか意識を持って記録し、確認するように努めている。異変に気付いた際には看護師を中心に情報を共有し必要であれば主治医への受診につなげ早期対応ができるように努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期回診時に職員の中から見た日々の症状の報告を行い、医師からの診断を仰ぎ職員全員の情報の共有に努めている。服薬処方についても理解し変更時は伝達簿にて確認し、状態観察の意識を高め、体調確認を行なっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	各利用者の排便状況の確認を毎日行なっている。出来る限り服薬に頼らず自然排便ができるように水分摂取や食事内容、食事量に配慮し、適度な運動を促すなど日頃のケアに留意して便秘予防に努めている。牛乳やさつま芋を使ったりとおやつ提供にも工夫を凝らしている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、欠かさず口腔ケアを実施。個人の力量に合わせ、口腔内の保清を支援提供している。また、週に一度はポリデント洗浄を行い、義歯の保護、衛生管理に努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の必要な水分、栄養摂取量を把握した上で、毎食の摂取量を確認。食材、形態を本人に合わせて提供している。食事量にムラがある利用者には栄養補助食品も考慮しながら、食への意欲を失わないように、バランスの取れた食事、水分提供に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	年間を通じて、また季節毎に懸念される感染症について研修の場を設けて意識を高めている。また感染予防マニュアルに沿い、汚染物の処理、手洗いの励行、ウエルパスでの消毒など日常的な衛生管理の徹底に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の温度チェックを行い、調理場、周囲の掃除を食材管理も徹底して行なっている。また布巾、まな板は定期的な消毒を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関ドアは出来る限り開放し、出入りのし易い雰囲気作りに努めている。また、玄関周りには季節の花を利用者と共に植え、手入れする事で四季を感じることができるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓際にソファを置き外部の光を感じてテレビや新聞を読んだりそれぞれがくつろげるような空間作りをしている。また日常的に音楽を流したり、季節の花々を活けたりと居心地のいい空間作りを心がけ、外部の様子を感じることが出来るように窓際にも花を置き各利用者の目に触れ易いようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには利用者と共に手がけた作品を展示したりして話題性を提供し、共用の場でありながらも利用者が自分の居場所である事が認識できるようにしている。食堂のテーブルは本人の席を決めており、ソファでは気の合った方とテレビを見たり昼寝をしたりして気兼ねなく過ごせている。		

宮崎県都城市 グループホーム2ユニットしらゆり（しらゆり）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	各居室は、各々の行動障害による危険度を考慮し、安全性を確保した上でそれぞれの愛着のある小物や寝具を利用している。本人と話し合いながら、快適な空間作りができるように支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温、湿度のチェックをこまめに行い、換気にも充分配慮しながら、利用者が快適に過ごせるように努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で、手すりが設置してあるが、本人の身体機能のレベルに合わせて、むやみに活用する事なく本人の残存機能を活かして自力動作が発揮できるよう自立支援に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各個人の生活リズムや日常動作を把握し、利用者が不安感を抱き混乱する事のないようにそれぞれの状態に合った、統一した声掛け、ケアを提供し利用者の自発性を引き出し、維持できるように努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	建物の周りは安心して散策できる歩道や、四季を感じる木や花々があふれ、環境に恵まれている。散歩や芝生の上で食事をしたりと戸外の活動も積極的に組み入れている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームでは法人内で管理している無農薬野菜を食材にした管理栄養士の献立による食事提供、認知症を専門職とする物忘れ外来の専門医を主治医とした医学的管理、またPT, OT, STといった各分野の専門療法士のリハビリも必要と思われる利用者に提供し、充実した医療体制の中で、心身の機能維持、向上を目標に健康管理を図っている。病状の安定をベースにし、日常的なケアに於いては、各利用者の生活歴、病症からくる行動障害を職員がきちんと理解し受け止め、暖かく家庭的な環境の中で、不安を抱くことなく安心して生活出来るように日々心掛けている。また、基本的な日常的支援を提供しながら、たとえ認知症であっても、毎日の生活の中に張り合いや生きがいを感じ、自分らしい生活を送ることが出来るように、家族のアドバイスを受けながら、本人の意向を伺い、個別ケアについての取り組みに力を入れている。更に、当ホームでは家族会の活動が非常に活発で、家族の協力体制が確立しており、年間行事など多数の家族の参加を得て過ごす時間を大切にしており、利用者への定期的な楽しみとしての支援も行っている。今後は、地域密着型サービス事業所としての意識を高めるために、家族の協力を始めとして、地域への活動にも積極的に参加し、交流を深めていきたいと考えている。